あなたの身近な人権擁護委員

人権に関わるさまざまな問題について、相談者に寄り添う人権擁護委員。今回は、本市での人権擁護委員の活動などを紹介します。

市立旭が丘小学校 人権教室

人権教室

子どもたちに思いやりの心や生命の尊さを学んでいただくために、保育園や幼稚園、小学校などで、絵本の読み聞かせや紙芝居などを中心に人権擁護委員が行っています。

法務大臣の委嘱を受けて活動する民間ボランティアである人権擁護委員。全国で約1万4,000人の委員が身近な人々の人権を守るため、人権相談を受けたり、人権の考えを広めたりする活動を行っています。

本市では、12人の人権擁護委員が公共施設などで相談所の開設をはじめとしたさまざまな啓発活動を行っています。

人権の大切さを伝えます

鈴鹿市人権擁護委員会 会長
藤田（ふじた） 秀昭（ひであき）さん

私たち人権擁護委員は、人権に関する相談をはじめ、人権の大切さを多くの方に知ってもらうための啓発活動を行っています。

人権教室では、よく子どもたちに「学校が楽しい人は手を挙げて」と呼び掛けます。すると、手を挙げて「楽しいです」と返ってきます。これで、子どもたちの様子が分かるんですね。しかし、わずかに手が上がっていない時もあります。そんなときは「学校を楽しいと思うためにどうしたら良いかをみんなで考えよう。これが人権を守るということなんだよ」と伝えています。

人権教室をきっかけとして、子どもたち一人一人に、自分自身のことを大切にするとともに、周りを思いやる心を育んでいただきたいと思っています。

人権擁護委員の主な活動

人権の大切さを多くの方に知ってもらうため、人権擁護委員は次のような活動を行っています。

人権相談　地域の皆さんからの人権に関する相談に応じています。

相談内容　人権に関わる相談
（近所や家庭内の問題、職場でのハラスメント、DVなど）
費　用　無料
※秘密は厳守します。
※日程は広報すずかの毎月20日号をご覧ください。

私たちは皆さんの気持ちに寄り添います。悩んでいることがあれば、気軽にご相談ください。

鈴鹿市人権擁護委員
神﨑（かんざき） 佳代子（かよこ）さん

救　済　「人権を侵害された」という被害者からの申告を受け、法務局職員と協力して調査に当たります。

啓　発　人権教室など、人権について理解を深めてもらうための活動をしています。

こんな啓発活動を行っています

人権の花運動

児童たちが花を育てることで、協力することや感謝すること、生命の大切さを学べるよう「人権の花運動」を行っています。

育てた花を、福祉施設などに届け、地域の皆さんと交流しています。

街頭啓発

人権週間に近鉄白子駅、鈴鹿市駅で街頭啓発を実施しています。市、県、法務局と一緒に、人権の大切さを呼び掛けています。

人権に関する電話相談窓口

法務省の人権擁護機関では、不当な差別、偏見、いじめなどの被害に遭った方からの人権相談を受け付けています。一人で悩まず、ご相談ください。

- **みんなの人権110番（全国共通人権相談ダイヤル）**
  0570-003-110（平日8時30分～17時15分）
- **子どもの人権110番**
  0120-007-110（平日8時30分～17時15分）
- **女性の人権ホットライン**
  0570-070-810（平日8時30分～17時15分）
- **外国語人権相談ダイヤル**
  0570-090911（平日9時～17時）
  対応言語：英語・中国語・韓国語・フィリピノ語・ポルトガル語・ベトナム語・ネパール語・スペイン語・インドネシア語・タイ語
- **インターネット人権相談窓口**
  https://www.jinken.go.jp/

子どもたちの人権作文

学校で人権について学んだ児童・生徒の皆さん。自らの経験をもとに記した「人権に関する作文」について、代表作品をご紹介します。

障がいは、はねとばせる

天栄中学校2年　矢橋（やはし）　陸空（りく）さん

僕は２０２０東京パラリンピックを見てとても感動しました。なぜなら今まであまりパラリンピックを見たことがなかったけど、今回興味を持って見て、パラリンピックに出場している選手がとても輝いて見えたからです。出場している選手たちは、車いすや腕や足がない人、目が不自由な人と、さまざまな障がいがあります。僕はその障がいがある選手がスポーツに取り組んでいる姿を見てすごいと思うと同時になぜ選手になろうと思ったのか不思議に思いました。もし僕に障がいがあったらこんなにも前向きにスポーツに取り組めていたか分かりません。また、とても選手になろうとは思えなかったはずだからです。

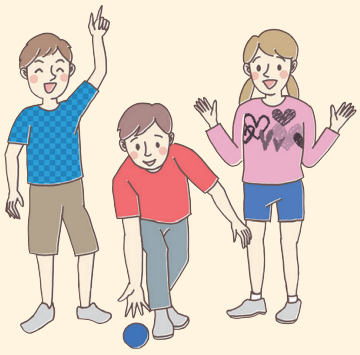
でもその疑問は僕の弟によって気づくことができました。僕の弟は、障がいがあります。脊髄性筋萎縮症という病気でとても力が弱く電動車いすで生活しています。自分の力では手も足も動かすことができませんがスポーツが大好きなのです。弟は、小学校の体育の時間で見学するのではなく、みんなと同じように一緒にスポーツをやりたいと言って周りの協力で弟ができる形に変え、弟のためのルールを作ってみんなと同じようにスポーツを楽しんでいます。スポーツは、障がいがあっても道具やルールを作ることで楽しむことができるのだと分かりました。

また、僕は弟と一緒にボッチャの体験に行ったことがあります。ボッチャとは、障がい者のために考案されたスポーツでパラリンピックの正式種目です。しかしこの競技は、老若男女、障がいのあるなしに関わらず、全ての人が一緒になって競い合えるスポーツです。そして僕は、介助者として参加しました。体験して、障がいのない人が障がいのある人をサポートして一緒に楽しめるこのボッチャという競技がすごいと思い、こんなすばらしいスポーツがあるのだと知り驚きました。

僕ももっとこのボッチャという競技を知りたいし、もっとたくさんの人にこの競技を体験してもらい、ボッチャの楽しさを知ってもらいたいと思いました。また、こういう障がいのあるなしに関わらず、全ての人が一緒に楽しめるスポーツが増えていってほしいと思います。

僕は弟を通して、またパラリンピック、ボッチャを通してスポーツのすばらしさと、障がいをはねとばしスポーツにチャレンジし、あきらめず努力する、それを楽しむ人間の強さとすばらしさを知りました。そしてスポーツを楽しむために障がいのあるなしは関係がないのだということも知りました。

スポーツに関わらずこの社会を生きていく中で僕は身近にいる障がいのある弟が持つ夢や可能性が、障がいがあることで失われるのは絶対に嫌です。障がいだけでなく、誰もがみんな違う個性を持ちその一人一人の持つ個性を生かすことができる世の中であってほしいと思っています。誰もがみんな楽しみを持ち、輝ける世の中であってほしいと思います。そして僕はそんな明るい未来を作る、発信する一人になりたいと思っています。



日本の学校ESCUELA JAPONESA

桜島小学校3年　クエト　エイミさん

ペルーからきて7か月がたちました。日本にきたとき、すぐに小学校の2年生にはいりました。わたしはくる前に、わたしががいこく人だからいじめられるのではとおもったので、こわかったです。日本ごがわからないからともだちはつくれないのと、小学校になれないかもしれないとたくさんふあんがありました。

学校ににゅう学したしょにちは、みんながはなしかけにきてくれましたが、がいこく人のともだちとはなしやすかったです。

クラスの日本人のともだちが、わたしがわかるように、すこしずつジェスチャーでコミュニケーションをとりました。

いま、日本人のともだちはたくさんいます。ともだちがわたしをあそびにさそってくれたり、かえりのじかんにいっしょにかえってくれたり、わからないべんきょうもやさしくおしえてくれたり、とてもうれしいです。

わたしは、まだ日本のたべものになれていません。そこで、きゅうしょくのじかんに、わたしがきゅうしょくをたべられるように、いろいろなともだちが、「がんばれ！」とおうえんしてくれます。わたしは、ともだちにとてもかんしゃしています。

小学校にあたらしいがいこく人のともだちがはいってきたら、今までわたしがたすけられたように、一人にならないように、わたしもたすけようとおもいます。

わたしの小学校は、いろいろなくにの子どもたちがいます。みんながたのしくせいかつし、べんきょうし、まなべるばしょなので、とてもすてきなばしょです。

友達の大切さ

椿小学校6年　坂口（さかぐち）　蒼茉（そうま）さん

僕は、低学年のとき、片目を大けがし、障がいを負いました。そのため、目の色がふつうの人とは違います。目の色が変なせいで人から「目の色変やで」「怖い」などと様々なことを言われたことがあります。僕は、そうやって目のことを言われるのがとても嫌でした。腹が立ちました。でもそのときは、何回も人から言われても言い返すこともできず、落ち込んだり、我まんしたりすることしかできませんでした。そして、そんな状態が２年ほど続きました。

そんな中、あるサッカー選手のKさんと出会いました。Kさんは、自分と同じように目に障がいを持っている人で、僕の気持ちをよくわかってくれる人でした。ただ、Kさんは僕とは違うところがありました。それは、とても前向きなところです。大きなけがを負ったにも関わらず、これまでと何も変わらず、前を向いていました。僕はその人をすごいなと思い、自分も何事もポジティブな人になろうと思うようになりました。

でも、そんなに簡単ではありませんでした。失敗をすればしょんぼりし、怒られれば落ち込んでしまうこともありました。でも、そんなときにKさんの姿を思い出すと、前より心を強く持てるようになっていきました。

時にはまた目のことをからかわれることもありました。今までは落ち込んだり、我まんしたりするだけでしたが、からかわれても「そんなこと言ったらあかんで！」と自分の思いを伝えることもできるようになりました。Kさんとの出会いが、僕の支えとなっていきました。

また、別に自分を支えてくれている存在にも気が付きました。それは友達です。ある時学校で6年生の友達と廊下を歩いていると近くを通った下級生の子に、「目が変やで。こわ。」と言われました。僕はそれに言い返そうとすると隣にいた友達が、「人それぞれあるんやから。そんなこと言ったらあかん！」と言ってくれました。その言葉は、僕には何よりもうれしい言葉でした。その時、自分が友達に支えられていると気が付きました。ぼくは、友達を大切にしたいと思うと同時に、今は、人に支えられていることが多いけれど、これからは、人のことを支えられる人になっていきたいなと思いました。

今回の特集に関するご意見・ご感想は
教育支援課 382-9055 382-9053 kyoikushien@city.suzuka.lg.jp